

## 学校運営協議会 会議実施報告書

- 1 会議名 令和2年度吉城高等学校 学校運営協議会 (第3回)  
\*協議会の前に「YCK (※) 報告会」(13:35~15:40)に参加  
(※)「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」
- 2 開催日時 令和3年2月5日(金) 15:45~16:50
- 3 開催場所 岐阜県立吉城高等学校 会議室
- 4 参加者
- |          |        |                        |
|----------|--------|------------------------|
| 会長       | 柴田 駿一  | 吉城高校同窓会長               |
| 副会長      | 沖畑 康子  | 飛騨市教育長                 |
| 委員       | 都竹 淳也  | 飛騨市長                   |
|          | 川上 佳洋  | 宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長    |
|          | 渡邊 正憲  | (株)飛騨ダイカスト代表取締役        |
|          | 藤白 規良  | 吉城高校育友会長               |
|          | 老田 知美  | 吉城高校育友会女性部長            |
| 学校側      | 日江井 孝浩 | 校長                     |
|          | 中田 和美  | 教頭                     |
|          | 大乗坊 健  | 事務長                    |
|          | 小原 誠   | 教務主任                   |
|          | 河野 和代  | 生徒指導主事                 |
|          | 小澤 耕   | 進路指導主事                 |
|          | 八賀 武子  | キャリア推進部長               |
| コーディネーター | 関口 祐太  | キャリア教育委託業者(株)Edo 代表取締役 |
| オブザーバー   | 布俣 正也  | 岐阜県議会議員                |

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 会長挨拶

今年度はコロナの対応に努力した1年間だったが、新しい日常や教育の実現に向けて、今後さまざまなことが構築されていくのではないかと。YCKは本校の大変大きな特色で、本日の報告会でも地域との交流によって生徒たちがこれ程の大きな学びを得るのかと改めて実感した。今後、学校運営協議会としてもっと積極的に生徒たちと関わりながら、本校をさらに発展させていきたいと考えている。

#### (2) 「YCK報告会」の感想を含む意見交換

##### 感想・意見1

YCK報告会の中で「経験は学問に勝る」との生徒の発言があり、今後ますます地域との交流を進めることが本校の発展につながると感じた。

##### 感想・意見2

コロナの影響により、思うように活動が進まなかったと思うが、その中でもできることを見つけながら実践してきたと思う。とても深いところまで探究を進めてい

る生徒たちもいたが、調べて終わりというグループもあったように思うので、より探究を深めてほしい。「生徒たちの探究力を上げていくにはどうすればよいか」、「目標設定をどうするか」等、学校がしっかり検討することも重要ではないか。YCKの活動を今後も継続していくならば、上級生が下級生を指導するという体制もできるのではないか。

ある生徒の発表に「苦手だったからやってみた」とあったが、目標を持って取り組むことができると充実した学びができると思う。もっと他校種と連携してもよいのではないか。

#### 感想・意見3

コロナ禍で制約のある中でも、とても良い活動ができたと感じた。ESDの6つのグループ発表は、とても良かった。他の発表もそれぞれ良かったが、本来目指すべき課題探究がしっかりできているという部分で、ESDの発表に感銘を受けた。高校生の視点で感じたことを表現しており、よく分かった。

市役所で取り組んでいる課題と目線がとても近いと感じた。直接いろいろな人から話を聞けるともっと良かったのだろうが、電話など他の可能な手段で調査活動したことは高く評価できる。地域課題探究学習は、従来のYCKプロジェクトの幅を広げ、より掘り下げた学びという点で意義深い。市役所でやっている仕事と重なるので、来年度は是非ともより一層連携してほしい。最後の3年生2人の発表を見て、課題探究をしっかりやるのが進路実現という成果につながると実感した。市では、飛騨市学園構想を現在進めているので、小中高で連携できると、活動の幅も広がるのではないか。

本日発表した生徒たちは緊張したり、相当練習したりしたと思うが、そうしたことを乗り越えてやり遂げ、我々に感銘を与えてくれた。生徒たちに感謝したい。

#### 感想・意見4

今年はコロナ禍の影響により、YCKの発表会を従来の大きなステージでなく、教室でやらざるを得なくなったので、生徒にはかわいそうだったが、内容は素晴らしかったと思う。前向きに考えれば、これも一つの経験ではないだろうか。中止という選択肢もあっただろうが、苦渋の決断でこのように工夫して実施されたことに感謝したい。中教審の答申に、普通科を再編し、地域課題の発見・課題解決能力の育成を目指す地域探究学科の設置とあるが、今日の報告会では生徒がその通りのことをやっていた。本校の活動は、全国のモデルになるのではないか。コロナ禍だからこそその良い研究ができたと思えて言わせてほしい。

#### 感想・意見5

企業では、PDCAを実践しているが、探究活動で高校生がやっていることもまさに同じだと思った。「コミュニケーション能力がついた」と発表にあったが、これから必要とされる力なので、どんどん高めてほしい。このような素晴らしい活動をしている生徒たちを褒めてやってほしい。

コロナの中で地元企業の紹介は難しいが、動画等の配信にも取り組んでいる。インターンシップなど今年度できなかったこともあるが、今後も協力していきたい。

#### 感想・意見6

生徒の発表にあった「経験は学問に勝る」という言葉はすごく大きい。自分の子どもは部活に意識が向いていて、あまりYCKに参加できなかったのも、大学入試

を迎えるにあたり、「学校生活で頑張ってきたことは何か」という項目が書けずに反省していた。

今後もYCKプロジェクトを頑張ってもらいたい。IターンやUターンなどで地域に人が移住する研究の発表が、「地元にはどんな企業があるのか?」というところで終わってしまったので、是非今後も引き継いで研究してもらいたい。

#### 感想・意見 7

3年連続で報告会に参加しているが、年々発表が上手になっていると感じた。コロナ禍でいろいろと工夫して活動しているが、その工夫をするということで大きな力がつくのではないかと。私たちの世代が高校生の時はこういう活動がなく、大学でなければできない、社会に出て即戦力となるような活動を本校生徒たちは行っている。1、2年生も頑張っているが、3年生は自分たちでやってきたという自信に満ちた、達成感を味わった顔をしている。私も地域の大人として何らかの協力が出来たらよいと思っている。

#### 感想・意見 8

報告会に参加させていただき、感謝している。今年も教職員と一緒に総合型入試を受験する生徒たちの受験サポートにあたらせていただいた。生徒たちは、これまでの人生やこれからの人生について考え、対話をしながら、自分の人生に向かうための課題を話してくれた。受験サポートをした生徒たちの合格結果を見て、とてもうれしかった。

また、このような報告会をオンラインで実施されたことも、とても素敵だと思った。「課題解決能力がどうしたら身につくのか」と考えると、大事なものは「人を思い、相手の思いを考えること」、「優しくしたい、喜んでもらいたい」という気持ちなのではないか。地域の人に「ありがとう」と言われる経験の量がとても大切で、次の課題解決に向かわせる力になるのではないかと。本校生徒は、この経験を多く積んでいると思う。

この学校運営協議会は学校評価をするだけでなく、探究的・課題解決的に学校運営を進めていくことが、結果として子どもたちの力になるので、その役に立ちたい気持ちでいっぱいである。

#### 感想・意見 9

開始当初からYCKプロジェクトの取組を見せていただき、感心することばかりだった。今回、ESDとYCKをコラボした発表が特に素晴らしいと思った。ESDの発表の「地元に残るか残らないか、地元に戻るか帰ってこないか」に関するグラフから、生徒たちの地元愛がどんどん強くなっていることが分かり、この活動を継承していく大切さを感じた。今日の発表で終わりではなく、今後も地域の良さを探究していくことが大事ではないだろうか。

本校生徒が進路を考える上で、自己有用感を生み出してしていくことが重要だと改めて感じ、引き続き前向きに探究することを期待する。

## 6 閉会の挨拶（副会長）

私たちは地域として学校の力になりたいと思っているので、地域のどのような力を学校が必要としているのかを議題とし、連携しながら新しいものを創り出していきたいと思う。

飛騨市学園構想で低学年層のうちから地域連携を積み上げ、高校でさらに花開か

せるような仕組み作りをしていきたい。

#### 7 会議のまとめ（学校長）

緊急事態宣言のため部活動の新人戦は延期が決まっており、生徒にとってはつらい状況であると思う。他校では学校運営協議会を書面開催としているところもあるようだが、生徒の発表を委員の皆様にご覧いただきたいという思いがあり、敢えて対面形式で開催した。頂いたお言葉は生徒に伝えたい。また、来年度以降はもっと意見を交わせるようにしたいと考えている。

残念ながら、今年度も入学希望者が定員に満たない状況であり、まだまだ努力が足りないと思っている。来年度以降もよろしくお願ひしたい。

以上「令和2年度吉城高等学校 学校運営協議会（第3回）」の報告をいたします。